

三〇九九番

紫草むらさきを 草くさと別わかく別わかく 伏ふす鹿しかの 野のは異ことにして
心こころは同おなじ

三一〇〇番

思おもはぬを 思おもふと言いはば 真ま鳥とり住すむ 雲うな梯での社もりの
神かみし知しらさむ

三一〇一番

紫むらさきは 灰はいさすものそ 海つ石ば榴き市ちの 八や十その衢ちまたに
逢あへる見こや誰たれ

三一〇二番

たらちねの 母ははが呼よぶ名なを 申まをさめど 道みち行ゆき人びと
を 誰たれと知しりてか